

生徒の学力を保障する組織的な取組の推進 ～検証改善サイクルの確立による授業等の改善～ 稚内市立稚内中学校 学級数4 (校長 藤原 雅宏)

I 実践のポイント

1 課題解決に向けた検証改善サイクルの確立

- 学習内容の定着状況の把握と課題の共有
- 各分掌における分析及び取組の企画

2 生徒の学力を保障する取組

- 「学び合い」に重点をおいた授業改善
- 個別指導の充実

II 実践概要

1 課題解決に向けた検証改善サイクルの確立

○ 学習内容の定着状況の把握と課題の共有

「ほっかいどうチャレンジテスト」や定期テストなど、各種テストを活用し、定期的に生徒一人一人の学習内容の定着状況及び課題となっている資質・能力の把握を行っている。また、全教職員で結果及び課題の共有化を図っている。

○ 各分掌における分析及び取組の企画

各種テストの結果を踏まえ、管理職の指示の下、各分掌部会で要因等の分析を行うとともに、「生徒の学力保障」の観点から、成果が見られ継続する取組や、改善に向けた具体的な取組の検討を行っている。また、早急に改善策を進めるため、各分掌で企画・立案した取組を、校務運営委員会で精査し、校長の承認を経て、全教職員で取組を進めている。

検証改善サイクル	8～9月	10～11月	12～1月	2～3月	4月
検証改善サイクル	・3学期学習内容の定着状況の把握と課題の共有	・2学期学習内容の定着状況の把握と課題の共有	・2学期学習内容の定着状況の把握と課題の共有	・2学期学習内容の定着状況の把握と課題の共有	・2学期学習内容の定着状況の把握と課題の共有
校務改善	・各分掌による授業改善	・各分掌による授業改善	・各分掌による授業改善	・各分掌による授業改善	・各分掌による授業改善

- 各分掌の取組の方向性**
- ・教務部：資質・能力を確実に身に付けさせる教育課程、授業の改善
 - ・生徒指導部：①不登校（不登校傾向）生徒に対する指導方針の策定
②特別な支援を要する生徒に対する指導方針の策定
 - ・研修部：①教員の資質・能力向上のための研修等の活性化
②各教科での1人1台端末の積極的な活用

【検証改善サイクルシート】

2 生徒の学力を保障する取組

○ 「学び合い」に重点をおいた授業改善

生徒が、当該学年で必要な資質・能力を確実に身に付けることができるよう、各教科等の授業において、「生徒同士の対話により、自己の学びを広げ、深めること」を目的とした「稚中式学び合い」を進めている。教科担任は、1単位時間の問題や課題を工夫し、展開場面において意図的に学び合いを実践するとともに、単元末では、対話が生まれる発展的な問題を積極的に取り入れるなどの工夫をしている。



【対話を重視した稚中式学び合い】

○ 個別指導の充実

生徒が各教科における自己課題の解決を図ることができるよう、年間8回（各種テスト前）の学習会を実施している。教員は自己課題に取り組む生徒に対し、指導や支援を行うとともに、複数の生徒が同じ問題でつまづいている場合は、適宜「稚中式学び合い」を取り入れ、対話を通して解決するよう指導している。



【自己課題の解決を支援する学習会】

また、全校生徒が体育館に集合し、生徒一人一人が自分の学習課題を考え、一定時間集中して課題解決に向けて取り組む「学習道場」を年間複数回実施し、全教職員で生徒の課題や実態に応じた指導や支援を行っている。

III 実践の成果（○）と課題（●）

- 全教職員で生徒の課題等を共有し、各分掌を中心に学力を保障する取組の検証改善を行ってきたことにより、全国学力・学習状況調査における知識・理解や技能の観点の正答率が昨年度と比較して増加した。
- 「稚中式学び合い」を授業改善の重点とし、継続的に取り組んだことにより、生徒同士の人間関係やコミュニケーションに変容が見られ、基礎的・基本的な学習内容の定着につながった。
- 学習内容の定着に課題がある生徒が一定程度いることから、全ての生徒の学力を保障するため、検証改善と授業改善、学習指導と生徒指導を一体的に進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を追究していく必要がある。